

町の教育・行政の推進を目指す

副町長と教育長へ辞令交付

欠員となっていた副町長と教育委員会教育長に、横野彰吾氏と米塚鈴子氏が任命され、6月13日(火)町長室で辞令交付式を行いました。

米塚氏は37年間教職員として勤務し、町の小学校においても教頭・校長を勤めるなど、町の教育事情に明るいという理由から選任されました。

横野氏は37年間にわたり、旧小泊村、中泊町職員として勤務。財政課長や総務課長を勤め、行政全般に精通しているという理由から選任されました。



横野 彰吾 副町長
町役場に37年間勤務。財政課長、総務課長を勤める。



米塚 鈴子 教育長
教職員として37年間勤務。主に西北五管内の小学校に勤務。薄市小学校教頭、中里小学校教頭、小泊小学校校長。



米塚教育長は「中泊町の子どものための教育に、再び携わることができ嬉しく思っています。これまでの知識や経験を生かし、中泊町で豊かに学び、町に住んでよかったと誇りに思い、町民として新しい時代を主体的に切りひらく人材の育成に取り組みます。教育行政のさらなる推進のために努力してまいります」と決意を述べていました。

更なる高みを目指し精進

阿武咲関幕内昇進
記念祝賀会

当町出身で阿武松部屋所属の阿武咲関(本名：打越奎也)の幕内昇進を祝おうと、5月31日(水)町総合文化センター「パルナス」で祝賀会が行われました。初場所となった夏場所では10勝5敗の好成績で敢闘賞も受賞し、会場に訪れた人はみな誇らしそうな顔をしていました。祝賀会には、後援会会員など町民ら約400人がかけつけ、阿武咲関の奮闘をたたえました。

濱館町長が「わがことのようにうれしい。けがに気をつけ、より上を目指して頑張ってもらいたい」と祝福しました。阿武咲関は「みなさんの応援のおかげで幕内昇進だけでなく、三賞も取ることができた。こ



今後の活躍誓う

れからも自分を磨き、みなさんに愛されるよう精進したい。横綱を目指して稽古に励む」と決意を新たにしていました。その後、津軽相撲甚句会が甚句を披露し、会場からは拍手が起きました。

祝賀会に出席した人は「阿武咲関はとても大きかった。関取に負けにくい稽古をがんばりたい」「これまでも応援してきたが、これからはもっと熱が入る。ぜひ横綱まで上り詰めて欲しい」とさらなる活躍を期待していました。



阿武咲関目指して

住民みんなんで祖先と仏を供養

今泉賽の河原例大祭

祖先供養と仏供養を目的に今泉賽の河原講中運営委員会(委員長・江良浩二)が主催する今泉賽の河原例大祭が6月23日(金)に行われました。

梅雨入りの時期ということもあり、例年は雨の日が多い例大祭ですが、今年は天候に恵まれました。霊場には地元をはじめ、多くの参拝者が訪れ、色とりどりの衣装を身にまとった33体の地藏に線香やお菓子を供え、手を合わせて先祖の霊を供養していました。

運営委員会は、今年も霊場内の広場でさまざまなイベントを企画しました。薄市小学校児童の合唱やなにもさき踊り、薄市こども園児による歌やダンス発表、お山参詣保存会の津軽のお囃子や、中里中学校吹奏楽部の演奏が披露されました。

さらに今年も町のイメージアップ大使の横山ひできさんと町イメージキャラクターの米ケルJr.とイカリんが応援にかけつけ、会場を盛り上げていました。また、ドックくじ引きなども企画され、子どもたちが参加して楽しんでいました。



津軽と下北のうまいもの大集合 「ピュア」オープン4周年感謝祭

町農産物加工販売施設ピュアがオープン4周年を迎え、6月24日(土)、25日(日)の2日間、感謝祭を開催し約2000人が来場しました。今年も、町内のこども園の園児らによるダンスなどで始まりました。大勢の観客が見守る中、元気に堂々と踊る姿に大きな拍手が送られました。最後はみんなと一緒に踊り、会場を盛り上げました。次に行われた「チャレンジ！大縄跳び」では、挑戦した園児や保護者がタイミングを合わせて跳んでいました。

今年はワークショップとして、田中恵津子さんと



竹内カツ子さんを講師にキッチンハーブの寄せ植えが行われました。苗が根付きやすくなる方法や注意事項などの説明を受けながら、参加者は選んだ鉢にいくつかのハーブを植えていました。

昨年好評を得た、津軽半島と下北半島の食対決も行われ、津軽のがっばら餅と山菜肉鍋、下北のべこ餅と牛すじ鍋が振る舞われました。来場者らは「下北の食べ物はとても美味しかったが、津軽も負けないと思った。どちらも美味しく甲乙つけがたい」と笑顔で話していました。

中泊町の魅力を伝える

薄市小学校
修学旅行でPR活動

薄市小学校の6年生10人が、6月14日(水)から16日(金)に修学旅行を実施し、函館市に行きました。2日目の15日(土)、函館市内の自主見学終了後、函館駅前では観光客や市民に対して中泊町のPRを行いました。

薄市小学校ではPR活動に向けて、6月7日(水)に町役場水産商工観光課の職員を招いての練習会を行いました。声の掛け方や、興味を引くための話題、想定される質問などの説明を受けた後は、先生や職員を相手にPRの練習をしました。



15日には練習の成果を発揮し、道行く人に対して「青森県の中泊町から来ました。メバル膳がおいしいです。いいところなので、ぜひ遊びにきてください」とはきはきと声をかけながら、特産品や町のパンフレットを手渡していました。イメージキャラクターの米ケルJr.とイカリんや内潟地区出身で北海道警に勤務する三上聖也さんらが応援にかけつけ、一緒にPR活動をしていました。三上さんは「元気が良くて驚いた。物怖じせず話しかけずごいと思った。一緒に仕事がしたいですね」と話していました。



PRを終えた児童らは「最初は緊張したけど、中泊町に興味を持ってくれて嬉しかった。観光客がたくさんきてほしい」と笑顔で話していました。



メバル膳4万食突破

ピュアレ스토랑で記念品・感謝状授与

当町の新・ご当地グルメ「中泊メバルの刺身と煮付け膳」が平成27年7月3日のデビューから717日目に当たる6月27日(火)、4万食を突破し、ピュアレ스토랑で記念イベントが行われました。

記念すべき4万食目となった青森市の石村琢也さんには生メバルや感謝状などが贈られました。メバル膳を食べた石村さんは「まさか4万食目に当たるとは。メバルの刺身はこりこりとした歯ごたえでとてもおいしかった」と大満足の様子でした。

メバル料理推進協議会の試算によると、4万食達成による経済波及効果は2億2千万円となるそうです。同協議会の中畑哲也会長は

「2周年を目前に、また大きな壁を越えることができ、とても嬉しい。これからも変わらぬメバル膳と中泊町をアピールしていきたい」と意気込みを語りました。

